



編集月旦 十二月一日 +

★we「月刊丈風」は、新媒体ゆえにスタイルを模索しながら半歩ずつ進めています。ペーパー媒体の月刊誌のように全面新組みとはせず、いま何が求められているかを編集の基準といたします。新情報・新資料は初掲載ですが、月をまた

いたいだ再録や再登場もあります。ただしタイトルは同じでも内容の数値の修正・補足・書き換えがなされています。当月号から既載分の情報・資料・用語などが検索できます。

☆12月号は「年鑑」として5月刊行以来の情報・資料をまとめてあります。

☆「月刊丈風」は全国に同時多発の活動の1拠点として、ささやかですが持続的に新情報を発信してまいります。

★「消費税増税」法案は、国会で6月26日に衆議院、8月10日に参議院で採決されました。同じ時期に「高齢社会対策大綱」が有識者と内閣府官僚の主導で10年ぶりに見直され、9月7日に閣議決定されました。政治家・学者・官僚がそれぞれ携わった「高齢社会」に関する新情報を、同じ視野でみて報じたメディアはありませんでした。現役記者は

現在の経済への貢献をニュースとしましたが、「高齢社会」そのものに関心が及びません。☆「高齢社会対策」の中・長期指針である「大綱」の内容については、見直しを指示した野田首相をはじめ政治の側には仔細な認識がありません。また一般の高齢者にはほとんど知らされておられません。すべての高齢者が知るべき「就業・介護・医療・生涯学習・生活環境・商品市場・三世代交流」といった暮らしの場への指針が広報されていないのです。これでどうして新たな社会、国際的に誇りうる「高齢社会」ができるのでしょうか。

☆新世紀10年余り継続観察してきて、わが国の「高齢社会」は高齢者みんなが敬愛をうけて安心して過ごせるモデル事例から遠ざかり、「失敗例」へのプロセスにあるといわざるをえないところにきています。

☆新「大綱」の画期的な指摘は、これまでの「人生65年時代」の「支えられる高齢者」にかわって、「人生90年時代」の「支える側の高齢者」の存在を明確にしたことにあります。今年3000万人に達した高齢者（65歳以上）のうち、医療・介護を受けている2割ほどの「支えられる」人びとを除けば、多少の有訴はあっても8割近くは「支える側の高齢者」です。みなさんが高齢者五原則（国連）である「自立・参加・ケア・自己実現・尊厳」を意識して過ごすことで形成する一つひとつの水玉模様のような成果が重なって、総体としての「日本高齢社会」形成への寄与となります。

★「総選挙」の結果と自民党内閣・民主党新布陣・第三極の動向をみての公開となりました。自民党回帰・財政出動・経済諮問会議では景気刺激までであって、地域住民の参加（住民総和）による持続的な経済成長を期待する本誌にとって新たなメッセージはありません。

☆「三世代協働（多重）型社会」形成への10年越しの提案は、「7月参院選」にむけての提案として継続いたします。

★本誌では新たな時代の内容を表現するために新しいことば（器）を用いています。

- ・人生65年時代 → 人生90年時代（65+25年人生）
- ・少子・高齢化社会 → 日本型長寿社会（つりがね型社会）
- ・二世世代+α型社会の余生（老人） → 三世代協働（多重）型社会の現役（丈人）
- ・青少年期に能力開発 → 高年初期（60~65歳）に2回目の能力開発（地域大学校）
- ・国土の均衡ある発展 →（とともに）個性ある地域の発展

★国際平和の証である「日本長寿社会（高齢社会）」の達成と「アジアの共生（豊かさの共有）」のために。（編集人・堀 亜起良 堀内正範 記）